

# 令和3年度 社会福祉法人 吉祥会 寒川ホーム 介護老人福祉施設 事業計画書・事業報告書

理事長	施設長	管理者	作成者

<b>理念</b> すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。	<b>方針</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。</li> <li>2. 革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。</li> <li>3. 地域のさらなる開花を目指します。</li> </ol>
---	--

令和2年度 法人の振り返り（評価・今後の課題）	令和2年度 事業所の振り返り（評価）
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 稼働率の低下と加算取り下げ（収入低下）</li> <li>2. ICT（介護ロボット）活用が普及せず、業務改善や各種活動（研修等）に偏りがある。</li> <li>3. ISOの認証取り下げによる代替システムの構築</li> </ol>	<p>①毎月62床（稼働率96%）以上を維持 ⇒平均稼働率92%（月96%以上の達成は無し） 4月～6月にかけて空床利用や入所に向けての事前準備不足稼働率として低い数値となった。 対策実施後（7月～）の平均稼働率として、93.5%だった為、引き続き次年度も継続する。</p> <p>②満足度アップ（ご利用者・スタッフ）と理念・基本方針への意識変化 ⇒年度末個人面談にて、理念・基本方針を理解しているスタッフは半数に満たず。 『グループ移動』に対する抵抗は減少したがグループの課題解決まで至らず、評価として未達成である。</p>

<b>法人目標 個人・チームの強みを伸ばし、常に先を見据えたサービス運営（提供）。</b> 『弱みを克服するだけでなく強みを伸ばす』『チーム内での役割を全うする』ことを目指します。（歓喜・革新） 『選ばれる施設・存続する施設となるため介護保険制度・介護業界の先を考えたサービス提供』を目指します。（革新・開花）
---

<b>介護老人福祉施設 事業所 事業目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①地域のお客様に選ばれる施設創り（介護機器の定着・寒川に特化した施設）（革新・開花）</li> <li>②医務と連携し（毎月会議の開催）、個々の危機管理能力を高めると共に事故件数の減少を目指す。（歓喜・革新）</li> <li>③グループのサービスの質・個々の介護スキルを向上させる（歓喜・革新）</li> </ol>
<b>具体的な達成（目標）数値</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①入所申し込み件数過去3年平均50件より増加していること。全ての介護機器の使用が浸透している。（年度末実技・筆記テストで理解している）</li> <li>②事故件数過去3年平均10件より減少していること。ヒヤリハット件数年500件以上。（昨年度より個々の件数を上げる※毎月グラフ化）</li> <li>③全ての入居者に合ったサービスが実施出来ている。（毎月、活動報告書に個々合った内容があること）個人目標に介護スキルアップに関する目標の選定。（全スタッフ達成していること）</li> </ol>

月間計画	評価 ※感想ではない	月間計画	評価 ※感想ではない
4月 ①介護機器の取り組み企画 特化した施設創りへの企画 ③グループ課題・個人目標の選定 個別面談	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別目標の評価基準表の評価方法（判断基準）を決める。</li> <li>・介護機器について、機器専属指導者を決め、各々で機器に対しての勉強を実施。</li> <li>・特化した施設創りに向け、各委員会の議題に組み込み、対応の検討中。</li> </ul>	7月 ①装飾・グループ別研修の開催 ②課題からKYT・勉強会の実施	
5月 ①機器指導者育成 ②事故課題の明確化 ③個別面談	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別面談を各グループ順次開始。</li> <li>・介護機器について専属指導者での勉強会を引き続き実施。</li> <li>・事故課題の明確化について、ヒヤリハットの個別グラフ化を実施しているが活かすまで繋がらず次月の課題とする。</li> </ul>	8月 ①装飾・グループ別研修の開催	
6月 ①機器指導者育成・事業所の装飾等 ②課題からKYT・勉強会の実施		9月 上半期評価・見直し ③取り組みの経過発表会 個別面談（下半期に向けて）	
<b>上半期評価</b>			
10月 ①中間介護機器テスト ②評価から必要事項の再検討 ③個別面談（下半期に向けて）		1月 ①介護機器最終テスト	
11月 ①中間介護機器テスト		2月 ①介護機器最終テスト ③個別面談（目標評価） 取り組み成果発表会	
12月 ②必要に応じて勉強会・対策		3月 下半期評価 ②ヒヤリ・事故件数の集計 ③個別面談（目標評価）	
<b>下半期評価</b>			

<b>実績・達成度（目標との比較）</b>	
-----------------------	--